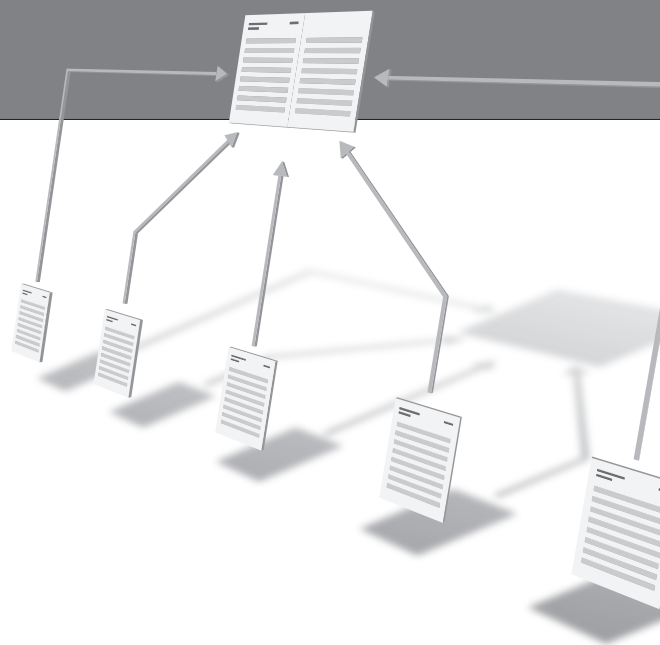


# 「借入金返済予定表」 作成のポイント

経営環境が複雑化する昨今、借入金が複数本ある企業も少なくないでしょう。そのような場合、借入金を管理して資金計画に見通しをつけることが重要です。そこで、借入金返済予定表を作成・活用する際のポイントを解説します。

いそぎ税理士事務所  
税理士

磯崎 宏 司



## 借入金返済予定表 とは

借入金返済予定表とは、金融機関からの借入金を契約（以下、「借入口」といいます）ごとに一覧表にまとめたものです。

資金繰り表を自社で作成している会社は多いと思いますが、借入金返済予定表まで作成している会社は、まだ少ないと感じます。

しかし、借入金返済予定表は資金繰り表や借入金一覧とは異なる情報を得られ、銀行交渉や資金繰り戦略に大きなメリットをもたらすものです。

借入金返済予定表には、大きく分けて、「基本情報」と「残高情報」の2つを記載します。

基本情報には、借入先金融機関名、当初借入金額、借入日、返済開始日、月次返済額、借入利率、担保・保証枠などの情報を記録します。残高情報には、借入口ごとの元金返済額、利息、残高を月ごとに記録します。

基本情報部分については、銀行借入金一覧として作成している会社も多いでしょう。しかし、銀行借入金一覧とは異なり、借入金返

済予定表には残高情報が付されており、借入金の情報整理や銀行交渉に非常に有用です。

以下、借入金返済予定表の作成方法や、活用方法を説明します。

## 借入金返済予定表の 作成方法

金融機関発行の返済予定表を手元に用意して、以下のステップで作成を進めます。

### ステップ 1 基本情報の取りまとめ （図表1）

借入口ごとの基本情報として、以下の項目を入力します。

- ・借入先金融機関名……金融機関ごとの集計がしやすいよう、金融機関名をはじめに記載します
- ・当初借入金額
- ・借入日（融資実行日）
- ・返済開始日……初回返済日。元金据置きで調達するケースもあるので、返済開始日の管理も重要です
- ・返済回数、月次返済額、借入利率
- ・担保・保証枠……不動産担保は入れているか、保証協会の保証枠を使っているか、保証枠は一般枠か、特別枠かなどの情報を記載します

図表1 借入金返済予定表の基本情報

株式会社磯崎商事

作成日：2025/6/1

月次残高推移

借入金返済予定表

No.	借入先	当初借入金額	借入日	返済開始日	返済回数	月次返済額	借入利率	担保・保証枠
1	A 銀行	20,000,000	2021/1/20	2021/2/19	60	333,300	2.00%	信用保証協会一般枠
2	B 銀行	15,000,000	2024/7/20	2024/8/19	120	125,000	1.50%	信用保証協会一般枠
3	C 銀行	10,000,000	2025/1/20	2025/2/19	60	166,700	2.00%	信用保証協会一般枠
4	A 銀行	5,000,000	2025/4/15	2025/5/14	36	138,900	2.50%	プロパー
5	D 銀行	10,000,000	2025/7/31	2025/8/30	84	119,000	1.00%	不動産担保
合計		60,000,000				882,900		

No.	繰越	
1	10,000,000	
2		
3		
4		
5		
残高		2

図表2 借入金返済予定表の月次管理

月次残高推移								
No.	繰越	2025 / 1	2025 / 2	2025 / 3	2025 / 4	2025 / 5	2025 / 6	2025 / 7
1	10,000,000	5,667,100	5,333,800	5,000,500	4,667,200	4,333,900	4,000,600	3,667,300
2		14,250,000	14,125,000	14,000,000	13,875,000	13,750,000	13,625,000	13,500,000
3		10,000,000	9,833,300	9,666,600	9,499,900	9,333,200	9,166,500	9,000,000
4					5,000,000	4,861,100	4,722,200	4,583,300
5								10,000,000
残高		29,917,100	29,292,100	28,667,100	33,042,100	32,278,200	31,514,300	27,750,400
返済額		-9,541,700	625,000	625,000	-4,375,000	763,900	763,900	4,583,300

残高情報の整理方法  
(図表2・次ページ図表3)

(1) 残高情報は1枚で管理を  
借入口ごとに毎月の元金返済  
額、利息支払額、残高をすべて記  
載すると、表が煩雑になり、可読  
性が低下するうえ、作成の労力も  
増加します。

また、A4サイズ1枚程度で管理  
しない、データの一元化によ  
る、理解のしやすさや一覧性の高  
さといった効果が低下します。

残高情報を整理する際は、エク  
セルの1枚のシートに集約するこ  
とをお勧めします。

(2) 各情報の入力方法  
返済額、利息支払額、残高のな  
かで最も重要なのは、一定期間ご  
との残高情報です。

金利は、返済予定表の記載内容  
を参照するか、エクセルの関数  
を使えば管理することもできます  
が、管理の優先順位としては低い  
ので、省略することをお勧めしま  
す(活用方法⑥参照)。

借入口ごとの残高は、前月残高  
から元金返済額を引くかたちで作  
成をすると、エクセルのオートフ  
ィルで簡単に作成できます。

返済額は、前月末の借入金残高  
から当月末の借入金残高を引くこ  
とで、簡易的に合計金額を把握す  
ることが出来ます。

(3) 月次管理と年次管理のメリッ  
ト・デメリット  
残高情報の管理方法には、月次  
で管理する方法と、決算期ごとの  
年次で管理する方法の2通りがあ  
ります。

月次管理のメリットとしては、  
より精緻に残高管理をすることが  
出来ます。一方で、返済開始から  
返済完了までを一覧にすることに  
なるため、表の情報量が横に長く  
なり、表が見づらくなるというの  
がデメリットです。

年次残高で管理をすると、月次  
残高を細かく管理できないことが  
デメリットですが、返済開始から  
返済完了までを紙1枚に収めるこ  
とができ、月次管理より可読性が  
高く資料として使いやすいことが  
メリットになります。

経理の現場で管理するための  
資料なら、より細かく管理ができ  
る月次管理が適しています。

経営者が確認するための資料  
は、中長期間スパンの戦略検討に  
使いやすい、年次管理による資料  
が適しています。

筆者の顧問先企業でも、予算検  
討の際に年次借入金返済予定表を  
共有しながら打合せ等を行なうこ  
とで、PL予測や資金繰り表だけ  
を見ながら経営を検討する場合に  
比べて、より精緻な話ができてい  
ると感じます。

ステップ  
3-1  
(図表2)  
月次残高の整理

月次残高を管理する場合は、図

図表3 借入金返済予定表の年次管理

株式会社磯崎商事				作成日：2025／6／1				年次残高推移			
借入金返済予定表											
No.	借入先	当初借入金額	借入日	返済開始日	返済回数	月次返済額	返済回数	年次返済額	借入利率	担保・保証枠	
1	A 銀行	20,000,000	2021／1／20	2021／2／19	60	333,300	12	3,999,600	2.00%	信用保証協会一般枠	
2	B 銀行	15,000,000	2024／7／20	2024／8／19	120	125,000	12	1,500,000	1.50%	信用保証協会一般枠	
3	C 銀行	10,000,000	2025／1／20	2025／2／19	60	166,700	11	1,833,700	2.00%	信用保証協会一般枠	
4	A 銀行	5,000,000	2025／4／15	2025／5／14	36	138,900	8	1,111,200	2.50%	プロパー	
5	D 銀行	10,000,000	2025／7／31	2025／8／30	84	119,000	5	595,000	1.00%	不動産担保	
合計		60,000,000				882,900					
年次返済表											
事業年度		実績 2024	予定 2025	予定 2026	予定 2027	予定 2028	予定 2029	予定 2030	予定 2031	予定 2032	
No.	借入先	残高	残高	残高	残高	残高	残高	残高	残高	残高	
1	A 銀行	6,000,400	2,000,800	0	0	0	0	0	0	0	
2	B 銀行	14,375,000	12,875,000	11,375,000	9,875,000	8,375,000	6,875,000	5,375,000	3,875,000	0	
3	C 銀行	0	8,166,300	6,165,900	4,165,500	2,165,100	164,700	0	0	0	
4	A 銀行	0	3,888,800	2,222,000	555,200	0	0	0	0	0	
5	D 銀行	0	9,405,000	7,977,000	6,549,000	5,121,000	3,693,000	2,265,000	837,000	0	
合計		20,375,400	36,335,900	27,739,900	21,144,700	15,661,100	10,732,700	7,640,000	4,712,000	0	
年次返済額		-	-15,960,500	8,596,000	6,595,200	5,483,600	4,928,400	3,092,700	2,928,000	4,712,000	

表2のように、借入口ごとに月次の残高を記載し、その月の残高合計と、返済額合計を計算します。

金融機関からの借入は、一般的に運転資金なら5～10年、設備資金なら15～20年などの長期にわたって返済していくものです。

20年分の数字を表にまとめて確認すると一覧性も損なわれ、資料として使いにくくなるので、月次で管理するのは向こう2～3年分ほどでも十分かもしれません。

**ステップ 3-2 年次残高の整理 (図表3)**

年次で残高管理をする場合は、年間の返済額を月次返済額×月数＝年間返済額という形式で表示すると、わかりやすい表になります。A3もしくはA4用紙1枚に入る情報量ですので、より一覧性が高い方法です。

**借入金返済予定表の活用方法**

**活用方法① 情報の整理**

借入金返済予定表の内容は、金融機関が発行する返済予定表に記載されているので、わざわざ一覧表にまとめる必要はないと考える人もいるでしょう。

単一の金融機関からしか借入られていない場合や、借入口が2、3本程度なら、返済予定を紙やPDFのスクリーンデータなどで確認すれば十分かもしれません。

しかし、借入口が多くなれば多くなるほど、資料を探す手間も増えてくると思います。

返済予定表をまとめたファイルがあったとしても、過去に返済完了済みの借入口分も含めて大量の資料をすべて探すだけで時間が

かかるし、なにより全体像が把握しづらいでしょう。

また、情報を1つの表に集約することのメリットとして、全体像を把握しやすくなり、思考を整理できる点が挙げられます。

たとえば、返済完了時期はいつか、いまのままで返済可能か、借換えのタイミングはいつか、新規投資のために追加資金の調達をするべきかなど、資金繰りは経営者の悩みのなかでも上位にランクインすることが多い事項です。

これらの悩みに対し、現状を見える化することで不安解消につなげることができます。

**活用方法② 資金繰り表作成の補助資料として**

借入金返済予定表は、資金繰り表作成の際にも活用できます。

前月残高と当月残高の差額から試算した月次返済額の合計値を資金繰り表の借入金返済額に転記するだけで、資金繰り表の財務キャッシュフローの部が完成します。

**活用方法③ 金融機関との交渉タイミングの検討**

借入金返済予定表は金融機関と交渉するタイミングを計る意味でも有用な資料となります。

銀行は過去の取引実績を重視す

るので、過去の最大借入金残高までは、借換えは比較的容易です。

そのため、「最大の借入金残高がいくらで、このタイミングで合計残高が最大値の半分まで減る。このタイミングで借換え交渉をしよう」というように、計画的に交渉するための補助資料になります。

なお、最低限、年に1回は、金融機関ごとにいつ追加融資を交渉するべきかを検討する時間をつくることをお勧めします。

決算書が作成でき、当期の資金繰り表を作成した時点で、どの金融機関からいつ追加融資を受けたか、そのためには前もって何月頃から打診すべきかという、銀行交渉スケジュールの中長期的な計画を、借入金返済予定表を活用して立てることをお勧めします。

#### 活用方法④ 金融機関への融資申請時

借入金返済予定表は、既存取引行に追加融資を申請する際や新規金融機関に融資を打診する際等、融資申請時全般で役に立ちます。

借入金の残高は決算書、勘定科目内訳明細書の借入金および支払利子の内訳書に期末残高が記載されるので、あえて借入金返済予定表を提出しなくてもよいと考える人もいるでしょう。

しかし、借入金および支払利子の内訳書には、期末残高は記載されているものの、他行の借入金額が複数口をまとめた合計なのか、借入口数が1本なのか、いつ借りたのか、月次返済額がいくらかなど、金融機関が知りたい内容が一切記載されていません。

それらの情報は、金融機関の内部稟議時に、銀行内部で営業担当者が審査担当者に提出する必要があるとあります。

会社側から借入金返済予定表を提出しないと、営業担当者は会社から他行の返済予定表を徴求して、自分で資料をまとめなければなりません。

CSV等の電子データがあればまだしも、紙媒体の返済予定表を元に借入金返済予定表を作成するのは、非常に手間がかかります。

銀行の営業担当者は、1人当たり100社以上を担当することも珍しくありません。

会社側から借入金返済予定表や資金繰り表などの資料を積極的に提示することで、金融機関担当者の手間を省き、融資審査の期間を短縮できる可能性があります。

また、金融機関が借入の状況を把握することで、金融機関側から

積極的に追加融資の打診をしてもらえる可能性があります。

提出の際は、電子データでの資料のやりとりが可能なら、PDFデータではなくエクセルデータをそのまま共有すると、担当者の手間をより省くことができます。

#### 活用方法⑤ リスケジュール交渉

借入金返済予定表は、金融機関にリスケジュール交渉をする際にも、有効な資料となります。

金融機関に借入金のリスケジュール交渉をする場合、一般的には借入残高が大きい金融機関から順番に交渉し、リスケジュール後の返済額は、金融機関別の残高シェアを基に決めます。現実的に返済可能な金額を、残高シェアに応じて配分するというイメージです。

リスケジュール交渉の際は、資金繰り難を早く脱する必要があるため、新規借入以上にスピーディーな対応が重要になります。

金融機関審査を少しでも早く対応してもらうためには、借入金返済予定表を会社側から提出するのがベターです。

#### 活用方法⑥ 金利総支払額の把握

借入金返済予定表において金利は省略してもよいと説明しましたが、金利の管理をすることのメリ

ットもあります。

事業年度ごとの金利総支払額と、借入口数ごとの金利総支払額が把握できることです。後者からは金融機関の利益率や利益金額を計算できます。

#### (1) 実質金利の把握

金融機関の貸出しによる利益率は、いわゆる実質金利と呼ばれます。実質金利が高い金融機関は、金利引下げに応じてくれるかもしれません。

実質金利の計算式は、次のとおりです。

実質金利(%) = (借入利息 - 預金利息) ÷ (借入残高 - 預金残高) × 100

#### (2) 金利総支払額の計算

元利均等返済の場合は、毎回の支払金利額を積算しなくても、簡易的に総支払額を計算する方法があります。

たとえば借入金額1000万円、金利1%、5年返済の場合の金利は、借入金額(1000万円) ÷ 2 × 金利(1%) × 返済期間(5年) = 約25万円です。

2で割るのは、元利均等返済の場合、借入金額に関わらず、返済期間中の平均借入金額が当初借入金額の約半分になるためです。▲



いそざき こうじ 金融機関で事業資金融資の営業担当後、税理士事務所勤務を経て独立。銀行側の融資実務に精通し、企業への資金調達アドバイスを得意とする。